

# 九州西方海域産小型齒鯨類の研究—Ⅶ

長崎県五島有川で捕獲されたオキゴンドウについて

水 江 一 弘・吉 田 主 基

## Studies on the Little Toothed Whales in the West Sea Area of Kyusyu—Ⅶ

About *Pseudorca crassidens* caught at Arikawa in Gotō Is. Nagasaki Pref.

Kazuhiro MIZUE and Kazumoto YOSHIDA

A great many *Tursiops sp.* and *Pseudorca crassidens* were caught at Arikawa Bay in Gotō Is. of Nagasaki pref., and they were observed and measured about many points. The results of the observation and measurement about *Pseudorca crassidens* were compared with that of the other sea areas and the characteristics of this species were investigated.

- 1) It is made clear by their size distribution that the shoal of this *Pseudorca sp.* had formed the harem.
- 2) The body color is brown black in all over the body, but a slender white line exists at the breast from the navel along the central line and it melts away in a light grey uncertain pattern which exists between the both pectoral fins.
- 3) The front of the head makes slender to some extent in egg form, and the lower jaw retires considerably than the upper jaw and the mouth rift is straightly from the lower front to the upper rear.
- 4) The front edge of the pectoral fin makes the loose wave and there are two mounds in this part.
- 5) They have not the sickle-shaped dorsal fin, and the top of the dorsal fin is very roundish and turns to backward.
- 6) The rift at the notch of the tail is deep, and both tail fins are piled up in this point.
- 7) The many fetus about 80cm in body length were discovered in this investigation.
- 8) The stomach contents were filled up by the squid, it is clear that this *Pseudorca crassidens* was the shoal of feeding migration and not breeding migration from the stomach contents, the body length of fetus and the date of catch.
- 9) It is made clear by the result of the measurement of the body external proportion that in this species the head part is smaller and the caudal fin is larger than that of the other sea areas.
- 10) About the change of external proportion with the progress of growing it is made clear

---

本研究は文部省科学試験研究費によって行なった。

又本研究は1961年4月日本水産学会年会でその概要を報告した。

that the growth of the back part of the dorsal fin is more better than that of the front part.

- 11) It is made clear by the result of the measurement of the skull proportion that in this species the snout part of the skull is more slender in some extent and the length or the width of the mandibula is longer and broader than that of the other sea areas, and the breadth of the snout in maxilla makes wide with the progress of growing in this species.
- 12) On the tooth in this species the number in upper jaw is 8 or 9 and in lower jaw is 9 or 10, and the difference to that of the other sea areas is not noticed.
- 13) The number of bertebrae of a fetus (78.5cm in body length) is 49.

## 緒 言

1960年12月19日に長崎県五島有川の砂浜に小型歯鯨類が多数追い上げられたという知らせを受けたので筆者等は現場に急行して幸いにも2日目の追い上げに間に合い、観察測定する機会を得た。PLATE XVIII, Fig. 1, 2 にその時の状況を示した。この小型歯鯨の群はハンドウイルカとオキゴンドウが混棲しており、前報<sup>1)2)</sup> においてのべた如く、この場合もこの両者は混獲されている。冬期の索餌洄游ではこの両者は必ず共棲しているといっても差支えはない。大体においてこの度の追い上げではハンドウイルカ300頭、オキゴンドウ200頭位であった。そしてこの度のハンドウイルカは体色や外形プロポーション等により前報<sup>3)</sup> のものと同種であると推察された。このハンドウイルカでは体長等多数にわたって測定したが、後刻系統や成長について報告する場合のべる機会があると思う。オキゴンドウについては今まで度々当地方では捕獲されている。

即ち PLRTE XVIII, Fig. 3 は1958年12月に五島三井楽で捕獲されたものであり、又 PLATE XX, Fig. 11 は1960年2月長崎県松浦市飛島において捕獲されたオキゴンドウの頭骨であり、又現在下関市水族館において飼育されているオキゴンドウは1960年2月山口県仙崎町青海島において捕獲されたものである。これ等は頭骨の形態や外形プロポーション等によってこのたび有川で捕獲されたものと同じ種類であると推察される。しかし何れにしてもこの地方産のもの報告は全くない。唯小川<sup>4)5)</sup> が宮崎県油津産、宮城県閑上産のものを夫々1頭(両方とも雄)について外形プロポーションの測定を行い、油津、閑上、塩釜、駿河、鮎川産等6頭について頭骨測定を行なっているにすぎない。この度筆者等は事情の許す限り測定を行い外形プロポーションは40頭について、頭骨測定7頭を行なったが、何しろ現場は戦場の如きさわぎであり、現場で鯨体を丸切りして分配々給するので脊椎骨数を数える事や、胎児の体長を測定する事は不可能であった。

本調査研究を行うに当り長崎県五島支庁水産商工課及び有川漁業協同組合に対して深甚の謝意を表すものである。

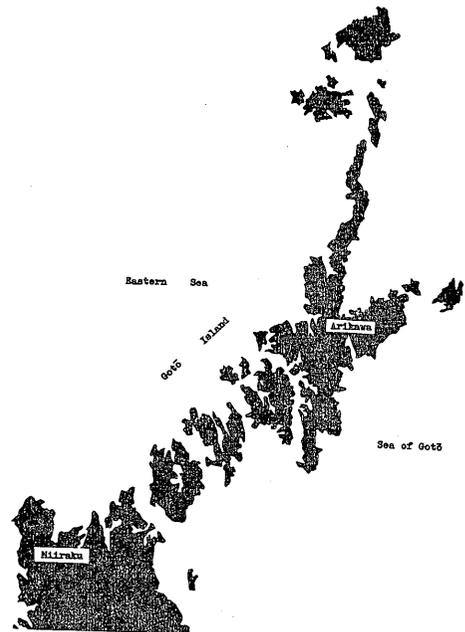


Fig. 1 Locality of catch

## 観 察 測 定

### A 体 長

外形プロポーションを測定したもの以外は体長の測定は行わなかったが、雌の場合は成体と考えられる個体(約400cm以上)がその群の大部分を占めており、大体最高は500cm前後であった。ところが雄では幼体が大部分であり(約350cm以下)約350cmから500cmまでの体長のは頗る少なかった。しかし中には500cm以

上のずばぬけて非常に大きいものが点在していた。(例えば頭骨測定No. 7)。これは所謂ハレムを形成しているという事を物語っている。

## B 体色及び体形

体色は全身にわたって幾らか褐色を帯びた黒色である。しかし腹面には臍から胸部にかけて細い白線が正中線にそって存在しており、左右の胸鰭間に存在している淡い灰色の不定形斑紋えと移行している。臍より胸部にかけての細い白線は本種体色の特徴であると思われる。

次に本種は他種と異って口裂は小川<sup>4)5)</sup>がのべている如く前下方より後上方に直線的に走っている(PLATE XX, Fig. 8)。又本種の頭部はハンドウイルカの如く吻部は存在せず、又ゴンドウクジラの如くふくらみは甚しくなく、PLATE XIX, Fig. 4, 5 に示すような形をしている。又本種においてはPLATE XIX, Fig. 4, 5 に示す如く下顎が上顎より相当後方にあり、上下両顎の歯にカメノテが寄生しているのがめずらしくなかった。次に胸鰭の形であるがPLATE XIX, Fig. 6 に示してある如く胸鰭前縁は前方に大きな弧を描いており、又後縁はゆるい波形をなして二つの山が存在している。山田<sup>6)</sup>が報告しているユメゴンドウの胸鰭とは明かに形態が異っている。本種の胸鰭については小川<sup>4)5)</sup>が指摘している通りであり、オキゴンドウの特徴であると思われる。次に背鰭の形態についてであるが同時に捕獲されたハンドウイルカとは、游泳中においても一見して区別する事が出来る。即ちハンドウイルカやカマイルカ等では背鰭の先端がとがった鎌形をなしているが、本種ではPLATE XIX, Fig. 7 に示している如く背鰭の先端が著しく丸味を帯びている後方に流れた形をしている。又山田<sup>6)</sup>が報告しているユメゴンドウの背鰭の形とは明かに相異している。次に尾鰭であるが本種では尾鰭分岐点のきれ込みが深く、その位置において殆どものが左右の尾鰭がかさなっていた。

## C 胎児

前述の如く胎児の測定は困難である。即ち鯨体を捕獲現場で切断分配するので多くの胎児も又切断され、完全な個体は得難いが今回は1頭だけ得る事が出来た。その体長は78.5cm(雌)であった。しかし他は測定出来なかったが、大体においてこの位の体長であった。前報<sup>1)</sup>において筆者等は松浦ハンドウイルカを報告したが、その時に同時に捕獲されたオキゴンドウの胎児3頭について測定した。即ち(93.5cm, 119.5cm, 128.0cm, 平均113.3cm...1960年2月6日)である。これは時期的にあって有川の場合よりも約1カ月半捕獲がおくれており、松浦の場合が胎児の体長が大きいのはその間の成長を物語っていると思われる。この両種のオキゴンドウが同種である事は後述の頭骨において推察される。今回混獲されたハンドウイルカも又約68cm位の胎児を持っていた。

## D 胃の内容

現場において胃内容の観察を行なったが、何れもイカ類を満腹しており、又混獲されたハンドウイルカにおいても同様にイカ類を主としてその他雑魚を満腹していた。前述した胎児の体長等からも本種は分娩洩游群ではなくて、索餌洩游中のものであると考えられる。

## E 外形プロポーション

前記した如く本種の胎児は12月で約80cm、2月では約115cmであり、本種も多分ハンドウイルカ等と同様に天然では7月、8月に分娩が行われると推察され、その時の体長は200cm前後と想像される。故にこのたび浜に追い上げられて測定されたものの内220~230cm位の体長のものは、その年の夏に生れたものと考えられ、我々はこれを稚体として扱った。又230~300cmまでの体長を持つものは存在していず、これは年間の成長を物語っていると思われる。次に体長分布において300~360cmまでの所にモードが存在しており、これが前年の夏期の分娩期に生れたグループであると考えられ、このグループを我々は幼体として扱った。又360cmより400cm附近までにはモードが存在せず400cm以上の体長を持ったものが多く存在している。故に便宜上約400cm以上のものを成体として取り扱った。Table 1, 2, 3 は夫々稚体、幼体、成体の外形プロポーションを示している。ところで本種における唯一の測定値である小川オキゴンドウ<sup>4)5)</sup>と比較する。又山田が新設したユメゴンドウ<sup>6)</sup>とは前記した如き形態上の差がはっきりしているので外形プロポーションの比較は行なわない、小川の外形プロポーションの測定は2頭であるが、何れも雄の幼体と思われ、本種のTable 2 における共通

な測定値と比較する。

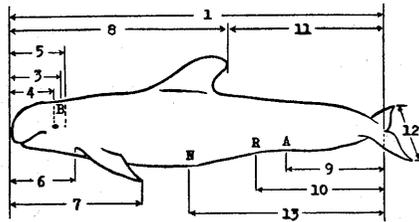


Fig. 2 Proportions of external measurement

A.....Anus B.....Blowhole N.....Navel

R.....Reproductive aperture

- 1) 体長（上顎吻端より尾鰭分岐点までの距離）
- 3) 上顎吻端より噴気孔中央まで
- 4) 上顎吻端より目の中央まで
- 5) 上顎吻端より耳孔まで
- 6) 上顎吻端より胸鰭底前端まで
- 7) 上顎吻端より胸鰭突起端まで
- 8) 上顎吻端より背鰭突起端まで
- 9) 尾鰭分岐点より肛門まで
- 10) 尾鰭分岐点より生殖孔まで
- 11) 尾鰭分岐点より背鰭突起端まで
- 12) 尾鰭幅（両突起端間の長さ）
- 13) 尾鰭分岐点より臍まで

Table 1 Values of measurement in external proportions and its percentages to body length ( $\sim 230\text{cm}$ )

No.	SEX	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
51	Female	230	—	28 12.17	27 11.73	37 16.08	44 19.13	75 32.60	125 54.34	67 29.13	77 33.47	105 45.65	52 22.60	123 53.47
52	Male	222	—	28 12.61	27 12.16	37 16.66	45 20.27	75 33.78	117 52.76	68 30.63	90 40.54	105 47.29	42 18.91	116 52.25

上顎先端より噴気孔中央まで、又目の中央まで及び胸鰭底前端までの3測定部位が両者に共通した頭部の大きさを示す測定値である。これ等の値は何れも有川産のものの方が小さい。故に有川産のものは宮崎及び宮城産のものよりも頭部がある程度小さいという事を意味している。次に尾部の大きさを決定する要因であるところの部位で両者が共通したものは尾鰭分岐点より肛門まで、生殖孔まで及び背鰭突起端までの3部位と尾鰭巾であるが、尾鰭巾以外は殆んど差は認められない。唯尾鰭巾は本種の方が遙かに大きく、これは前報<sup>1)2)</sup>の松浦ハンドウ及び有川ハンドウの場合でも他海域のものと比較するとそうであった。

Table 2 Values of measurement in external proportion and its percentages to body length (300cm~370cm)

No.	SEX	1	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
75	Female	302 {	38	35	47	57	95	156	93	104	146	65	164
			12.58	11.58	15.56	18.87	31.45	51.65	30.79	34.43	48.34	21.52	54.30
63	"	323 {	41	35	47	59	95	177	95	106	146	77	176
			12.69	10.83	14.55	18.26	29.41	54.79	29.41	32.81	45.20	23.83	54.48
57	"	325 {	38	36	47.5	58	101	—	98	109	—	74	179
			11.69	11.07	14.61	17.84	31.07	—	30.15	33.53	—	22.76	55.07
72	"	362 {	44	36	48	61	110	195	110	122	167	82	192
			12.15	9.94	13.25	16.88	30.38	53.86	30.38	33.70	46.13	22.65	53.03
65	"	364 {	46	41	56	72	121	198	125	140	166	86	198
			12.63	11.26	15.38	19.78	33.24	54.39	34.34	38.45	45.60	23.62	54.39
	Mean	—	12.34	10.93	14.67	18.32	31.11	53.67	31.01	34.58	46.31	22.87	54.25
48	Male	301 {	32	33	41.5	56	95	156	92	123	145	70	—
			10.63	10.96	13.78	18.60	31.56	51.82	30.56	40.86	48.17	23.25	—
70	"	304 {	39	35	47.5	58	100	—	90	122	—	71	162
			12.82	11.51	15.62	19.07	32.89	—	29.60	40.13	—	23.35	53.28
74	"	304 {	36	31	42	56	95	156	93	123	148	72	166
			11.84	10.19	13.81	18.42	31.24	51.31	30.59	40.46	48.68	23.68	54.60
59	"	330 {	43	38	50	61	102	170	98	132	160	74	183
			13.03	11.51	15.15	18.48	30.90	51.51	29.69	39.99	48.48	22.42	55.45
66	"	331 {	40	37	48.5	57	99	167	108	145	164	73	186
			12.08	11.17	14.65	17.22	29.90	50.45	32.62	43.80	49.54	22.05	56.19
44	"	338 {	43	37.5	49.5	60	103	174	107	140	164	70	186
			12.72	11.09	14.64	17.75	30.47	51.47	32.65	41.42	48.52	20.71	55.02
	Mean	—	12.18	11.71	14.68	18.25	31.16	51.31	30.95	41.11	48.67	22.57	54.98

Table 3 Values of measurement in external proportion and its percentages  
tobody length in adult animals

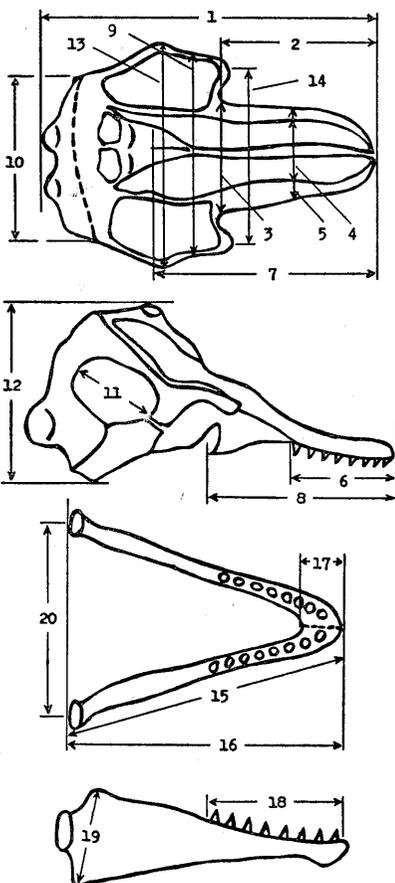
No.	SEX	1	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
61	Female	398 {	—	42	55.5	65	115	—	130	147	—	90	229
			—	10.55	13.94	16.33	28.89	—	32.66	36.93	—	22.61	57.53
43	"	403 {	44	37	51	59	106	—	132	146	—	83	236
			10.91	9.18	12.65	14.64	26.30	—	32.75	36.22	—	20.59	58.56
49	"	410 {	49	43	57	70	124	210	128	142	200	86	230
			11.95	10.48	13.90	17.07	30.24	51.21	31.21	34.63	48.78	20.97	56.09
39	"	421 {	43	39	53	60	121	209	128	146	212	89	240
			10.21	9.26	12.58	15.67	28.74	49.64	30.40	34.67	50.35	21.14	57.00
40	"	423 {	40	37	50	61	114	—	127	141	—	94	243
			9.45	8.74	11.82	14.42	26.95	—	30.02	32.33	—	22.22	57.44
67	"	425 {	45	40.5	53.5	68	120	205	139	159	220	92	247
			10.58	9.52	12.58	16.00	28.23	48.23	32.70	37.41	51.76	21.64	58.11
47	"	426 {	48	43	58	75	123	214	131	148	212	90	243
			11.26	10.09	13.61	17.60	28.87	50.23	30.75	34.74	49.76	21.12	57.04
50	"	428 {	50	42	55.5	72	126	211	142	161	217	98	253
			11.68	9.88	12.96	16.82	29.43	49.29	33.17	37.61	50.70	22.89	57.11
54	"	435 {	46	42	56	71	122	217	140	155	218	87	251
			10.57	9.65	12.87	16.32	28.04	49.88	32.18	35.63	50.11	20.00	57.70
45	"	438 {	49	43	57	70	125	221	135	154	217	102	249
			11.18	9.81	13.01	15.98	28.53	50.45	30.82	36.84	49.54	23.28	56.84
56	"	439 {	44	37	51	66	122	211	140	157	228	100	257
			10.02	8.42	11.61	15.03	27.79	48.06	31.89	35.76	51.93	22.57	58.74
58	"	439 {	47	43	58	71	127	211	133	151	228	100	254
			10.70	9.79	13.21	16.17	28.92	48.04	30.29	34.39	51.93	22.77	57.85
46	"	446 {	47	41	55.5	72	126	217	143	161	229	95	257
			10.53	9.19	12.44	16.14	28.25	48.65	32.06	36.09	51.34	21.34	57.62
55	"	447 {	48	44	58	73	127	—	141	159	—	90	268
			10.73	9.84	12.97	16.33	28.41	—	31.54	35.57	—	20.13	59.95
41	"	450 {	48	45	60	74	127	214	151	167	236	99	273
			10.66	10.00	13.33	16.44	28.22	47.55	33.55	37.11	52.44	22.00	60.66
64	"	452 {	49	45	59	71	122	—	147	165	—	104	267
			10.84	9.95	13.05	15.70	26.99	—	32.52	36.50	—	23.00	59.07
69	"	456 {	47	44	60	75	134	224	141	162	232	100	261
			10.30	9.64	13.15	16.44	29.38	49.12	30.92	35.52	50.87	21.92	57.23
68	"	458 {	48	46	61	73	127	225	140	160	233	108	273
			10.48	10.04	13.31	15.93	27.72	49.12	30.56	34.93	50.87	23.58	59.60
42	"	477 {	50	48	63.5	74	128	241	154	170	236	99	282
			10.48	10.06	13.31	15.51	26.83	50.52	32.28	25.63	49.47	20.75	59.11
53	"	506 {	51	42	57.5	76	141	242	164	187	264	114	—
			10.07	8.30	11.36	15.01	27.86	47.82	32.41	36.95	52.17	22.52	—
	Mean		10.66	9.61	12.88	15.97	28.22	49.18	31.23	35.72	50.80	21.86	58.06
62	Male	372 {	45	40	53	66	117	192	120	158	180	96	206
			12.09	10.75	14.24	17.74	31.45	51.61	32.25	42.47	48.38	25.80	55.37
60	"	385 {	—	41	54	67	120	—	124	162	—	92	211
			—	10.64	14.02	17.40	31.16	—	32.20	42.07	—	23.89	54.80
73	"	412 {	46	40	54	69	128	200	131	175	212	98	233
			11.16	9.70	13.10	16.74	31.06	48.54	31.79	42.47	51.45	23.78	56.55
	Mean		11.62	10.36	13.63	17.29	31.22	50.75	32.08	42.33	49.91	24.49	55.57

## F 成長に伴う体長プロポーションの変化

前述した如く測定したオキゴンドウを稚体幼体，成体に大別し，夫々各測定部位の体長比の平均値を Table 4 に示した。Table 4 において頭部の大きさを示している測定部位は(3)~(6)であるが(3)を除いて何れも幼体，成体となるにつれてその値が小さくなっており，成長と共に体長に対して頭の部分が小さくなる。即ち成長につれて他の部分に比して頭部の成長が緩慢になるという事を意味している。次に部位(3)と(4)との関係であるが，Table 4 に明かな如く，稚体では眼よりも噴気孔が前方に位置しているが，幼体，成体ではこの関係が逆であり，噴気孔は眼よりも後方に位置するようになる。この関係は前報<sup>3)</sup>の有川ハンドウイルカにおいても全く同様な事が認められている。又本種における測定部位(3)では他の測定部位と同様で成体の値が最も小さいが，幼体ではこの部位の値が最大である。この事はこの部分が稚体，幼体時において急速に成長するという事を意味していると思われる。次に背鰭の位置を決定する測定部位(8)及び(11)についてであるが，(8)は成長するにしたがってその値が小さくなっているが，(11)においては当然の事であるがその値が次第に大きくなっている。これは背鰭より前方の成長に比して背鰭より後方の成長が良好であるという事を明か

Table 4 Change in external proportions with the progress of growth

Female : Male	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
(稚体) 1 : 1	11.39	11.95	16.37	19.70	33.19	53.55	29.88	—	46.47	20.76	52.86
(幼体) 5 : 6	12.26	11.01	14.64	18.29	31.14	52.36	30.98	—	47.63	22.71	54.58
(成体) 20 : 3	10.75	9.72	13.00	16.15	28.62	49.29	31.78	—	50.70	22.20	57.73



に物語っている。又背鰭より後方の成長がより良好であるという確たる証拠がこの外にも存在している。即ち測定部位(9)，(10)，(13)であるがこれ等の値は何れも幼体，成体となるにつれてその値を増加させている。このように腰部，尾部の成長が頭部，胸部の成長に比べて著しいという結果は前報<sup>3)</sup>の有川ハンドウイルカの場合においても同様であった。次に尾鰭中(12)であるがこれは成長するにつれてその値を増加させて

Fig. 3 Proportions of skull measurement

- 1) 頭骨全長(上顎骨全長)
- 2) 吻長
- 3) 吻基底幅
- 4) 吻中部における切歯骨幅
- 5) 吻中部幅
- 6) 上顎歯線長(左右平均)
- 7) 吻端より噴気孔中央まで
- 8) 吻端より翼状骨口蓋部後端まで
- 9) 左右眼窩距離
- 10) 左右側頭窩後縁距離
- 11) 側頭窩長右(最大長，最小長)左(最大長，最小長)
- 12) 頭骨(上顎骨)最大高
- 13) 頭骨(上顎骨)最大幅(左右頬骨間距離)
- 14) 左右前頭骨突起間距離
- 15) 下顎骨長
- 16) 下顎骨先端より両関節突起中央までの距離
- 17) 縫隙長
- 18) 下顎歯線長(左右平均)
- 19) 下顎角と鳥喙突起先端との距離
- 20) 左右関節突起間距離

はいるが、幼体におけるその傾向が最も著しい。

## G 頭 骨

頭骨の標本は8体について作製した。その内1体は稚体のものであり、後頭部及び頭蓋底部の各骨格が標本作製中に分解々体された。又他の1体は体長(320cm)から判断して幼体である事が明らかである。それ故にこの2体を除いた成体のみの6体について一応別に平均値を出した。Table 5 に頭骨各部の測定値及び頭長比を示した。先ず頭骨全長(1)に対する体長比を見れば、体長の小さいもの程その値は大であり、外形プロポーションにおけるのと同じ結果が出ている。又小川<sup>4)</sup>はオキゴンドウ頭骨の計測を6体について行なっているが、そのうち幼体と思われるもの(体長判明の2頭のみ)2頭と本調査の幼体(No.6)とは殆んど同じ値を示している。次にこの外に小川測定における頭骨のみの資料の内、頭骨全長から判断して幼体と思われるものを更に2頭加えて本調査の幼体(No.6)の各測定部位と比較する。吻の形態を決定する測定部位(2), (3), (4), (5)については(2)は有川オキゴンの方が大きく、(3), (4), (5)はその値が小さい。これは有川オキゴンドウの方が他海域のものよりも吻の中がせまくてその長さが長いという事である。又次に上顎歯線長(6)及び吻端より噴気孔中央までの距離(7)においても有川オキゴンドウの方がそれ等の値が大きく、吻が細長いという同証拠を提供している。又(8)の値の方は逆に本種の方が小さい。これは翼状骨口蓋部が本種の方が前方に位置しているという事を意味している。又(9), (10), (11)においては両者殆んど差は見られない。即ち頭骨の中等は海区によって相異なるという事である。次に下顎骨についてはその体長比(15)及び頭骨全長比(15)が何れも有川オキゴンドウの方が小川測定よりもはるかに値が小さい。これを裏づけする他の測定部位(17), (18)においても本種の方が値は小さくみている。しかし測定部位(19)は反対に本種の方が値が大きい。これは本種の下顎骨が長さは短いすが巾は広いという事を意味している。

次に成体の頭骨については(3), (4), (5)の値が本種の方が小川オキゴンドウよりも小さくて(2)は大きく、幼体と同じく成体においても本種の方が吻が細長い事を示している。成体における(6), (7), (8)についても幼体と全く同じ傾向が明かである。又頭骨の中を示す測定部位(9), (10)の値は幼体の場合と同様に両者殆んど同じである。又下顎骨については幼体と同じ結果が出ている。即ち本種の成体においても小川オキゴンドウよりも下顎骨の長さが短かくその巾が広いという事を現わしている。

又次に本種の幼体と成体の頭骨測定を比較すれば測定部位(3), (4), (5)の値は成体の方が大きくなっており、(2)の値は逆に成体の方が小さくなっている。これは本種が成体になるにつれて吻部が細長くなる事を意味している。それ以外の測定部位では老幼によって差は認められない。

## H 歯 数

歯の形状は小川<sup>4)</sup>が示しているのと同じである。又本種の歯は体長の大きいもの程所謂虫食いが多くなっている。次にTable 6 に歯数を示した。歯は上下両顎に同様存在している事もあるが、一般に下顎歯の方が

Table 6 Number of alveolus

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
SEX	Male	Male	Male	Female	Female	Female	Male	?
B. L.	395	422	460	435	393	320	547	?
Right of upper	8	8	8	9	8	9	9	8
Left of upper	8	8	8	8	8	9	9	8
Right of lower	10	10	10	9	9	9	9	10
Left of lower	10	10	9	9	10	9	9	10
Total	36	36	35	35	35	36	36	36

上顎歯より多くなっている。又上顎歯は8~9本、下顎歯は9~10本の中が夫々ある。小川オキゴンドウと

Table 5 Values of measurement of skull and its percentages to body length (1 or 15) to total length of skull (2~15) and to length of mandibula (16~20)

No.	SEX	B.L	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
1	Male	395	69	33	20.7	12.3	18.6	24.1	46	45	35.4	24.5	21 14.1	21.5 13	28.3	39.4	27.9	55.4	53	9.5	27	15	36.8	
			17.47	47.83	30.00	17.83	26.96	34.93	66.67	65.22	51.30	35.31	30.43 20.43	31.16 18.84	41.01	57.10	40.43	14.03	80.29	95.67	17.15	48.74	27.08	66.43
2	"	422	62.5	29.5	20.8	12.6	18.9	22	40.3	39.5	34.3	22.6	17.5 13.1	18.1 13.6	27.2	39	28.1	50.2	47.4	8	24	14.4	36.4	
			14.81	47.20	33.28	20.16	30.24	35.20	64.48	63.20	54.88	36.16	28.00 20.96	28.96 21.76	43.52	62.40	44.96	11.90	80.32	94.42	15.94	47.81	28.69	72.51
3	"	460	66	30.5	21.3	12.4	18.4	22.2	42.3	42.6	35.7	25	19.8 14	18.8 14	28.2	39.5	28.00	53.5	50.5	8.8	23.8	14.8	38	
			14.35	46.21	32.27	18.79	27.88	33.64	64.09	64.55	54.09	37.88	29.99 21.21	28.48 21.21	42.73	59.85	42.42	11.63	81.06	94.39	16.45	44.49	27.66	71.03
7	"	547	74	34.7	24.8	17	21.7	29	47.2	49.3	39.9	21.6	20.2 15	19.5 16	29.7	42.8	34	60.8	58	12	28.5	16.8	40.5	
			13.53	46.89	33.51	22.97	29.32	39.19	63.78	66.62	53.92	29.19	27.30 20.27	26.35 21.62	40.14	57.84	45.95	11.11	82.16	95.40	20.69	49.14	28.97	69.83
Mean			15.04	47.03	32.27	19.94	28.60	35.74	64.76	64.90	53.55	34.69	28.93 20.72	28.74 20.86	41.85	59.30	43.44	12.17	80.96	94.97	17.56	47.55	28.10	69.95
4	Female	435	65.4	30	19.3	13.8	18.1	24.8	41	42	34.4	21.5	20.3 13.6	20.2 13.00	26.7	37.8	27.7	52	50	8.5	24.3	14.3	35.8	
			15.03	45.87	29.51	21.10	27.68	37.92	62.69	64.22	52.60	32.87	31.40 20.80	30.89 19.88	40.83	57.80	42.35	11.95	79.51	96.15	16.35	46.73	27.50	68.85
5	"	393	65.2	31	21.7	13	18.2	23.4	42.5	41.2	36	22	20.6 12.5	20.5 12.9	27.4	38.5	27.8	52.5	50.5	7.6	25.6	14.7	36.5	
			16.59	47.55	33.28	19.94	27.91	35.89	65.18	63.19	55.21	33.74	31.60 19.17	31.44 19.79	42.02	59.05	42.64	13.36	80.52	96.19	14.48	48.76	28.00	69.52
6	"	320	58.4	27.5	16.7	10	14.8	22	39.6	37.5	29.5	23.3	16.3 10.9	16.5 11.6	23.4	32.8	22.9	46	—	7.3	21.5	12.8	—	
			18.25	47.09	28.60	17.12	25.34	37.67	67.81	64.21	50.51	39.90	27.91 18.66	28.25 19.86	40.07	56.16	39.21	14.38	78.77	—	15.87	46.74	27.83	—
Mean			15.81	46.71	31.40	20.52	27.80	36.91	63.94	63.71	53.91	33.31	31.32 19.99	31.17 19.84	41.43	58.43	42.50	12.66	80.02	96.17	15.42	47.75	27.75	69.19
T. M			15.30	46.93	31.98	20.13	28.33	36.13	64.48	64.50	53.67	34.23	29.73 20.47	29.55 20.52	41.71	59.01	43.13	12.33	80.64	95.37	16.84	47.61	27.98	69.70

本種の歯数との有効差は認められない。

### I 脊椎骨数

前述した如く本調査において脊椎骨数を測定する事は困難である。しかし幸いにも胎児（78.5cm）1頭を得る事が出来たのでその脊椎骨数を数えた。その数は49個であった。小川測定<sup>4)</sup>では2個体（何れも幼体）とも脊椎骨数は50個であった。又小川によれば REINHARDT (1866), TRUE (1889) 及び BEDDARD (1900) の測定した *Pseudorca crassidens* の脊椎骨数は何れも50個となっている。

### 結 論

1960年12月19日に長崎県五島有川で多数のオキゴンドウ及びハンドウイルカが捕獲された。それ等の内オキゴンドウの諸観察計測の結果を他海域産のものと比較し、又本種の特徴について検討した。

- 1) 本調査においては本種がハレムを形成していたという事が体長組成によって明かである。
- 2) 体色は全身黒褐色であるが臍より胸部にかけて細い白線が正中線にそって存在していて、左右胸鰭間に存在している淡灰色の不定形斑紋へと移っている。
- 3) 頭部は卵形に幾分細くなり、下顎は上顎より相当後方にあり、口裂は前下方から後上方に直線的に走っている。
- 4) 胸鰭後縁はゆるい波形をなして2つの山が存在している。
- 5) 背鰭は先端がとがった鎌形をなしていない。その先端は著しく丸味を帯びていて後方に流れている。
- 6) 尾鰭分岐点における切れ込みが深く、左右の尾鰭はその位置でかさなっている。
- 7) 本調査においては80cm前後の胎児が多数発見された。
- 8) 胃の内容はイカ類を満腹していた。胎児の体長から考えてこのオキゴンドウの群は分娩洩游群ではなくて索餌洩游群であると推察される。
- 9) 本種は他の海域のものに比べて頭部が小さい事、尾鰭が大きい事が外形プロポーション測定結果から明かにされた。
- 10) 背鰭より後方の部分の成長は、背鰭前方部の成長よりも良好であるという事が、稚体、幼体、成体の外形プロポーション測定の結果明かにされた。
- 11) 頭骨各部測定の結果、本種の上顎骨吻部が他海域のものより巾が狭く長い事、又下顎骨は他海域のものに比較して長さが短く巾が広い事が明かにされた。又本種は幼体から成体になるにつれて上顎骨吻部の巾は広くなる。
- 12) 本種の歯数は上顎歯は8本乃至10本、下顎骨は9本乃至10本であった。他海域のものとの差は認められない。
- 13) 胎児（78.5cm）の脊椎骨数を1頭について測定した結果49個であった。

### 文 献

- 1) 水江一弘・吉田主基：九州西方海域産小型歯鯨類の研究—I，長崎県松浦市で捕獲されたハンドウイルカについて，本誌，9，32～41，(1960)
- 2) 堤 俊夫・上村順一・水江一弘：九州西方海域産小型歯鯨類の研究—V，小型歯鯨類の食性について，本誌，11，～，(1961)
- 3) 水江一弘・吉田主基：九州西方海域産小型歯鯨類の研究—III，長崎県五島有川で捕獲されたハンドウイルカについて，本誌，10，38～46，(1960)
- 4) 小川鼎三：本邦の歯鯨に関する研究（第4回），植物及び動物，4，10，26～28，(1936)
- 5) 小川鼎三：本邦の歯鯨に関する研究（第5回），植物及び動物，4，11，1～8，(1936)
- 6) YAMADA, M : An Account of a rare Porpoise, *Feresa* Gray from Japan, Sci. Rep. Wha. Res. Ins., 9, 59～88 (1954)

## PLATE

## PLATE V

Fig. 1 and Fig. 2 *Pseudorca crassidens* and *Tursiops sp.* which stranded on the beach of Arikawa Bay.

Fig. 3 *Pseudorca crassidens* which had been caught at Miiraku in December of 1958

## PLATE VI

Fig. 4 Head form and mouth rift

Fig. 5 Head form from the back side, plowhole is seen.

Fig. 6 Pectoral fin

Fig. 7 Dorsal fin

## PLATE VII

Fig. 8 A slender white line which exists at the breast from the naval along the central line

Fig. 9 Dorsal view of skull

Fig. 10 Ventral view of skull

Fig. 11 Dorsal view of skull of *Pseudorca crassidens* which had been caught at Matuura City in February of 1960

## PLATE VIII

Fig. 12 Lateral view of skull

Fig. 13 Posterior view of skull

Fig. 14 Dorsal view of mandible

Fig. 15 Lateral view of mandible

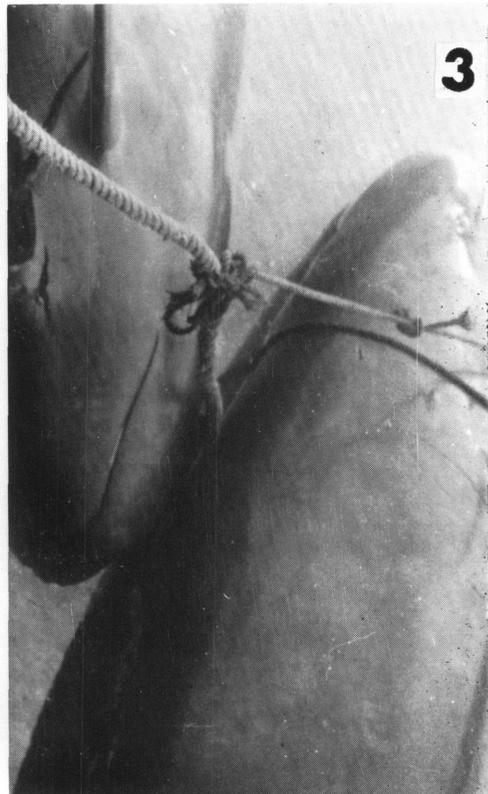
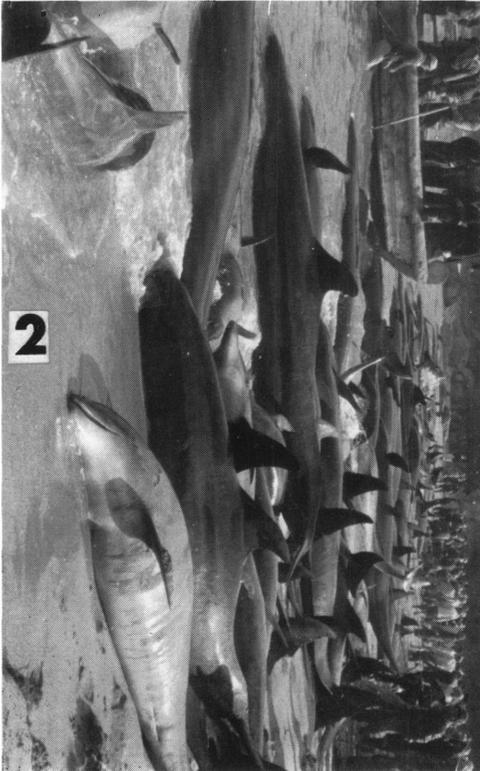


PLATE XIX

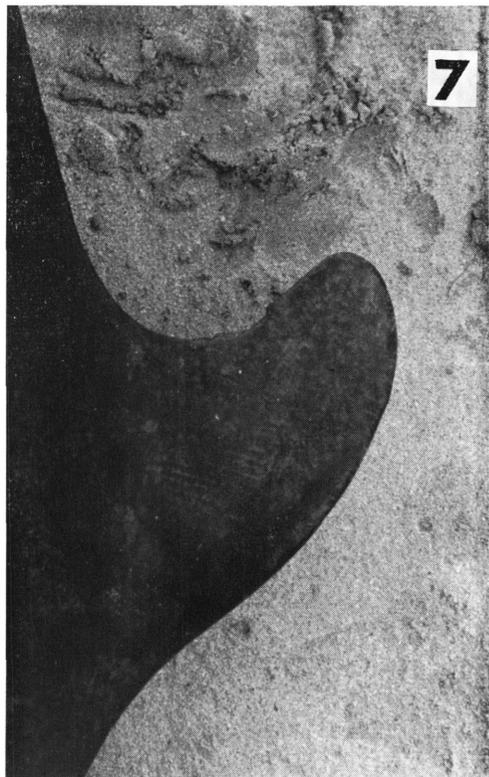


PLATE XX

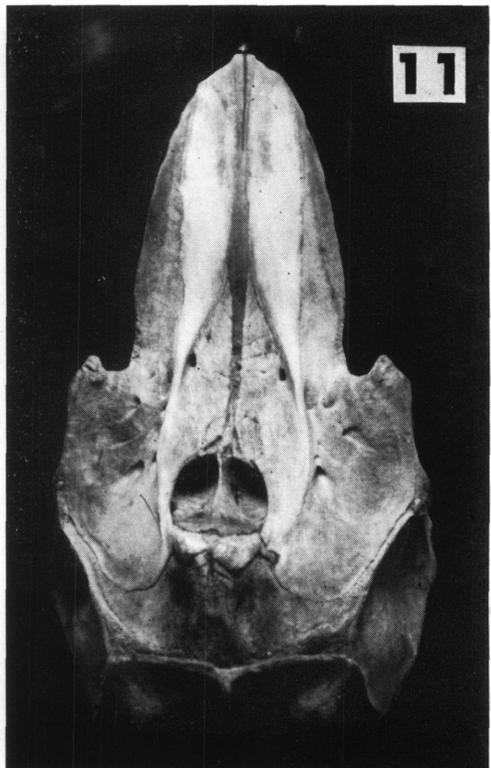
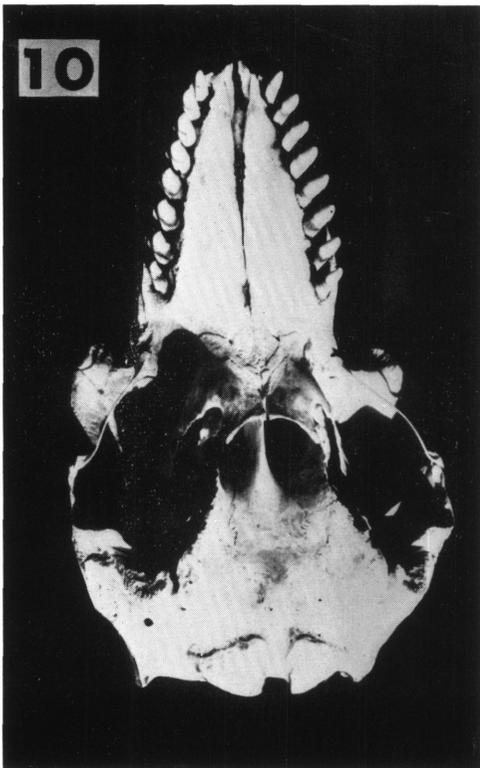
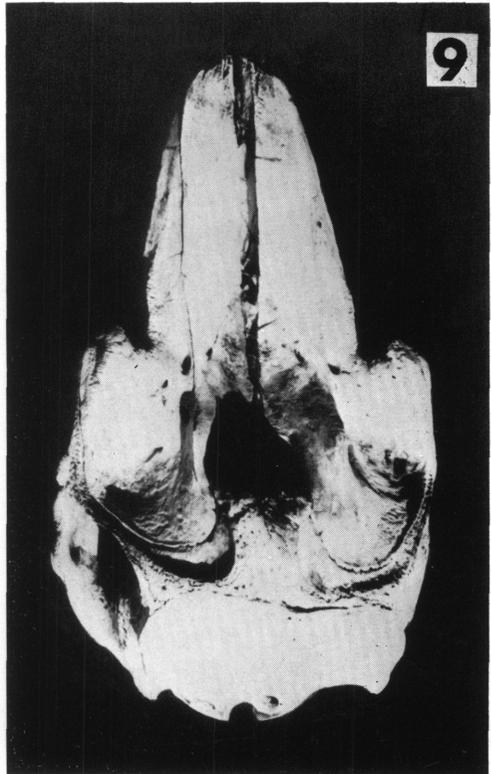
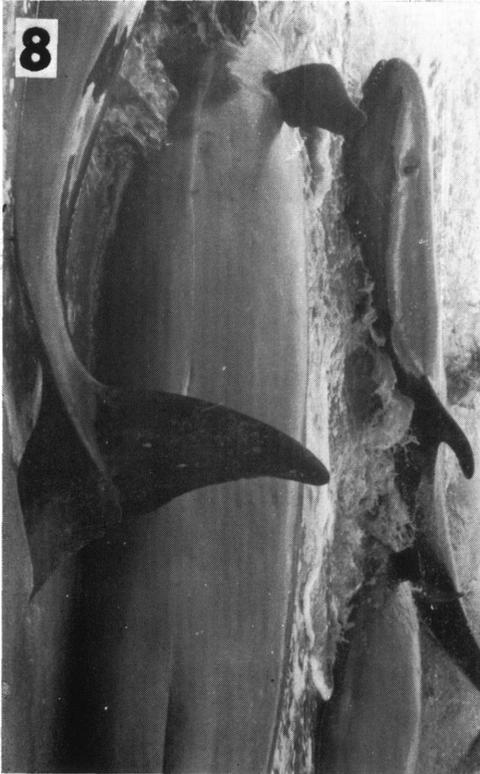


PLATE XXI

